

(有)福島造船鉄工所の事業基盤強化計画(抜粋)

別紙

企業概要

- 1868年(明治元年)創業。山陰地方で唯一、本格的な鋼船建造を手掛ける造船所であり、内航貨物船、旅客船、艦艇・官公庁船、漁船等を幅広く手掛けている。
- また、日本最大級の全天候型乾ドックを有し、10総トン未満の各種船舶から、最大4,500総トンの大型貨物船まで建造可能。
- 2009年には日本初となる環境負荷低減を図った電気推進船(セメント専用船「安鷹」)を建造する等、新たな技術を活用した先進的な船舶の開発・建造にも取り組んでいる。



計画の概要

- フィン付ラダーバルブ等の最新の省エネ設備を搭載し、CFDによる船体形状最適化を図った新たな省エネ型LPGタンカーを開発・建造する。
- 船体ブロック製造を内製化することにより、約2~3ヶ月の工期を短縮し、低コスト化・高操業化を図る。
- 具体的には、1.28億円を投資し、船体ブロック置き場の整備・確保、製造した船体ブロックを運搬するための牽引台車、NCプラズマ切断機、3D-CAD設計ツール等を導入する。

<計画実施期間> 2026年7月~2031年3月

<実施場所> (有)福島造船鉄工所 森山工場(島根県松江市)



セメント専用船「安鷹」
(スーパーエコシップ)

日新興業(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 昭和20年創立。冷凍空調プラントの総合エンジニアリングメーカーとして、漁船向け冷凍設備、海上保安庁の中・大型巡視船の空調設備、VLGC向け再液化装置など、船舶冷凍空調設備を手掛ける。
- 近年は、環境に配慮した冷凍設備、アンモニア冷凍設備、自動車運搬船向けCO2消火設備等、新たな分野への参入も積極的に行っている。



VLGC向け再液化装置

計画の概要

- 今後のゼロエミッション船等の建造需要拡大を視野に、同社が保有する船舶搭載用アンモニア冷凍装置・アンモニア再液化装置に係る技術を元に、アンモニア燃料タンクに対応した低温保持設備(アンモニア燃料再液化・冷却設備)を開発・生産する。
- 具体的には、当該装置を生産する工場を新設するとともに、新たな生産設備を導入する。

<計画実施期間> 2026年7月～2030年3月

<実施場所> 日新興業(株)摂津工場(大阪府摂津市)



新設生産工場のイメージ

久保メタル(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 船用タンク向け鏡板の長年の製造実績を有する鋼構造物製造専門企業である久保工業(株)と幅広い営業ネットワークを有する鉄鋼総合商社である(株)メタルワンの合併会社として2025年12月に発足。
- 呉工場は1,000トンの超吊り可能なハングオーバークレーン、間口20mのバースを有しており、大型鏡板の一貫製造・総組出荷が可能。



計画の概要

- 大型船舶のカーボンニュートラル化が進展する中で、大型Type-C燃料タンク向け鏡板の国内製造・供給体制の確立を目標とする。
- 具体的には150トンの天井クレーンや大型プレス機、半自動溶接機、可動台車等の生産設備を新設することで、大型鏡板の一貫量産体制を構築する。
- 2030年度に国内で生産される船用燃料タンク向け大型鏡板の国内シェア50%超を目標に掲げ、これまで海外調達や特定事業者への依存度が高かったタンクサプライチェーンの強靱化に貢献する。

<計画実施期間> 2026年6月～2031年3月

<実施場所> 久保メタル(株)本社 呉工場(広島県呉市)

